

2009年度防災教育チャレンジプラン実践校

丸東・改援隊 地域防災対策 最終報告



宮城県 丸森町立 丸森東中学校

1 目的

少子高齢化が進む中山間地域において、地域の防災力を高める。

（自助・共助の方策等の構築、防災意識と対策・災害対応機能の向上）

中学生が核となる教育実践を、地域住民を巻き込む活動に発展させ、住民間の協働体制を進化させて持続可能な地域社会づくりとその活性化をはかる。

2 プランの概要

- ①地域住民による**学校支援組織「改援隊」の設立**と
学校と地域が一体となった**地域防災訓練の実施**
- ②防災の専門家による**講演会等の実施**並びに地域防
災訓練後の**成果の発表会の実施**
- ③中学生による地域の危険箇所や避難場所の確認と
地域防災ハザードマップ等の作成
- ④学習の成果をもとに、町議事堂での**模擬議会の開
催**
- ⑤農業体験学習との関連を図り、生徒が栽培・加工した
**米、味噌、梅干し、たくあん等を非常食として備
蓄**

3 年間活動の記録

月 日	実施計画	実施の概要
2009年 3月	講演会	演題:「中学生にできる地域防災」 講師:宮城県仙南保健福祉事務所 副所長
4月	「丸東・改援隊」 設立総会	60歳を越える地域住民が40人 (4月以降も徐々に隊員が増加)
5月	地域防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の避難所への移動体験 ・高齢者世帯の安全確認、広報活動 ・避難所設営、避難所体験 ・炊き出し試食体験 ・避難者の健康観察 ・防災関連グッズの展示、防災ビデオの上映 ・自衛隊による災害用器材等の展示、体験
	地域防災 シンポジウム	講演会 演題:「災害時の学校の役割 ー阪神淡路大震災に学ぶー」 講師:兵庫教育大学名誉教授 徳山 明 氏 パネルディスカッション 題目:「地域防災を話し合おう」 パネリスト:・兵庫教育大 徳山氏 ・地区公民館長 ・陸上自衛隊司令職務室長 ・本校生徒代表

月 日	実施計画	実施の概要
2009年 6月	地域防災訓練の成果や課題のまとめ	中学生が地域防災で貢献できる内容や講演・訓練等で学んだ成果や課題のまとめ。 発表会に向けた資料の作成。
7月	地域防災訓練成果と課題の発表会	学期末の授業参観日に開催。 保護者、地域住民等に学習実践の成果を発表。 地域防災スローガンの宣言。
10月 11月	模擬議会にむけて	地域防災マップ・ハザードマップの作成 避難所設営マニュアルの作成 模擬議会の発表資料の作成
12月	模擬議会の実施	学習の成果をもとに、中学生が考える地震対策や防災意識の向上策等を町当局へ提案
2010年 2月	ぼうさい甲子園入賞報告会並びに「災害メモリアルKOBÉ」参加報告会	生徒、地域住民等に向けて、1/9(土)10(日)のぼうさい甲子園表彰式(本校プランは、はばタン賞に入賞)と「災害メモリアルKOBÉ2010」に参加した教員による報告・講話
	ユネスコ・スクール加盟校への発信	ユネスコ・スクール加盟校へ取り組みを報告・発信

「丸東・改援隊」設立総会 (H21,4,18)



「改」: 学校の教育改革

「援」: 改革の支援

隊員数: 約40名



安全な避難経路はどこ
だろう。
一人暮らしのお年寄り
の家はどこだろう。

地域防災訓練にむけて

「改援隊」の方との
事前の打ち合わせ



地域防災訓練の実施 (H21,5,22)



避難所への避難・誘導



高齢者世帯の
安否確認



災害状況収集班



避難所の設営と運営



避難者の受付



避難所設営・運営班



炊き出し調理班

おにぎりと豚汁
180人分の調理



応急・救護班

避難住民の健康観察



非常用持ち出しバック(女性用)
～災害時にこんなものがあたら便利!!～

◦スリッパ	◦マスク
◦団型はちみつ	◦ブラシ
◦ローソクセット(ローソク・燭台・マッチ)	◦カッター
◦ホイッスルキーライト	◦防災手帳
◦スーパー保存水	◦軍手
◦天然コットン×3つ(ウェットティッシュ)	◦セロファン
◦金鏡	◦コンパクトタオル
◦けむりフード	◦ナプキン
◦はみがきセット	
◦ポケットティッシュ×3つ	
◦レジャーシート	

計20個

掲示物による啓蒙



陸上自衛隊による 展示・説明



給水車



炊飯器材



被災者用テント



緊急物資の輸送
(協力: 県トラック協会)



非常食・防災グッズの展示
(協力: 町社会福祉協議会)



地域防災 シンポジウム

- ①講演会
- ②パネルディスカッション

「地域防災を話し合おう」



「災害時の学校の役割」

—阪神淡路大震災に学ぶ—

兵庫教育大学名誉教授 徳山 明 氏



参加者総数：203人

中学生49人、改援隊員38人、地域住民76人、
小学生12人、教職員12人、他校教職員等5人、
保護者9人、その他

協力・支援をいただいた団体

地区公民館、陸上自衛隊駐屯地、町社会福祉協議会、
地区消防団、婦人防火クラブ、宮城県トラック協会、
兵庫教育大学など

成果と課題の発表会 (H21,7,11)

係ごとの成果と課題の発表



(中学生、保護者、地域住民が参加)

地域防災スローガン

**みんなで築こう
地域防災の和**

(1) 地域防災マップの作成

- ・学校までの避難経路、途中の危険箇所などについて、調査 → 地区ごとのマップを作成



- ・各家庭に配布するとともに、模造紙大に拡大したものを公民館や小学校に掲示をお願いします。



- ・避難経路がより分かる。
地震についての関心が高まる。

防災意識の向上

(2) 避難所設営マニュアル等の作成

- ・避難者の動線への配慮、高齢者や障害をもつ人への配慮
- ・設営時間の効率化



- ・「避難所(体育館)配置図」、「案内表示設置図」、「健康チェックシート」、「避難所設営用品管理表」の作成

(3) 保存食の備蓄



米づくり



味噌づくり



梅干しづくり



たくあんづけ

模擬議会での提言

H21, 12, 9 於丸森町・議会議事堂



第1号議案

「宮城県沖地震に備え対策を立てよう」

第2号議案

「地域の防災意識を高めよう」

4 プラン実践による成果

- ①学校と中学生が地域貢献を強め、地域の信頼と協力・支援を向上。
- ②中学生を含む地域住民の防災意識を高め、災害時における自助と共助の方策を構築。
- ③地域の活性化と持続可能な地域社会づくりに影響・反映。
- ④少子高齢化の中山間地域における安全・安心な地域形成と将来に向けた地域再生・発展に資する可能性。

5 次年度にむけて

A[行 動]

- ・模擬議会の開催
- ・地域防災スローガンと議案提言による実践
- ・ぼうさい甲子園への応募
- ・オーライ・ニッポン大賞への応募
- ・ユネスコ・スクール加盟校としての活動報告

P[企画・計画]

- ・「丸東・改援隊」との連携・企画(H21, 4月設立)
- ・事前学習としての講演会
- ・生徒による地域防災訓練構想
と計画・内容
- ・生徒による「丸東・改援隊」への説明・協議

C[評 価]

- ・地域防災訓練の成果発表会
- ・アンケート調査結果の公表
- ・チャレンジプラン中間発表
- ・学校評価の実施

D[実 践]

- ・地域防災訓練の実施
- ・講演・パネルディスカッションの実施

終わりに 次年度のチャレンジ

- ・「休日の日中に地震発生」を想定した地域防災訓練の実施 （条件設定を変更）



生徒の活動内容と地域・保護者等との連携の拡充を図る （他市町に勤務する住民が参加可能）

- ・フィールドワークによる過去の災害事例の掘り起こしと地質調査の実施



防災マップ・ハザードマップの拡充を図る